

# ひまわりからの メッセージ

113号

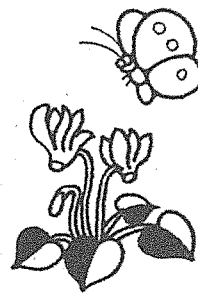
2021.1.18

NPOひまわりの花内  
西濃圏域

発達障がい支援センター

発行人：中野たみ子

## 季節はずれの 訪問者



令和三年の新春を迎えましたが、コロナ禍の中、今年は今までとはちがったお正月だったのではないのでしょうか。

我が家も皆が揃って、ゆっくり食事をすることもなく、孫たちは顔を見せただけで、早々に引き上げて行きました。

夫婦二人の寂しい日々と思っていました。思いがけなく珍しい訪問客がありました。実は、十三日は、私の大切な友の立ち白だったので、長い交友の日々を思い出して過ごした一日だったのですが、その夜、二階の寝室に上がろうとして、ふと、キッチンの上の三角のものが目に止まりました。こんな所に、ごみが落ちておられると思って拾おうとしました。しかし、やわらかな感触に思わず手を引込めてしまいました。よく見ると、紋白蝶でした。もう死んでいるかと思つてティッシュですくい上げてみると、かすかに触角を動かします。この寒い冬に、一体どこから迷いこ

んで来たのでしょうか。飛ぶ力もなく翅をたたんで横になつて居るのですが、確かに生きています。周りは花がなく、仕方がないので花びんに活けた菊の葉の上に置いてやりました。

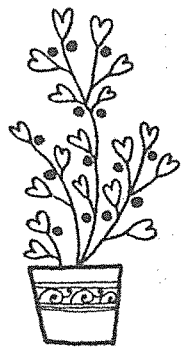
さて、こうなると、蝶が気になつて寝室には行けません。結局、二時間をキッチンで過ごす羽目になりました。

蝶は動きません。翅は立てられないのかもしれませんが、人が触れることは良くないのかもしれないと思いつつ、体を起こしてやりました。すると、やっと動き出しました。そして飛ぼうとしましたが、のように二度三度翅をふるわせたのですが、また横になつてしまいました。私には、紋白蝶が友の仮身のようにも思われ、て翌朝、どうしたかなあと探してみると、葉の上でなく、茎にかまっています。少し元気になったということです。レタスの葉を用意してみたり、朝夕、蝶の小さな命にかかわりながら、コロナの患者さんのために働いて下さっている医療現場の方々に思いを馳せました。おそろしく、医療現場の方々は患者の皆さんの命を守るために必死に闘っておられるに違いありません。迷い込んで来たこんな小さな命でさえ助けたいと思つたのです。人の命であればなおさらのことでしょう。

コロナ禍で心がふさがちがちな日々ですが、決してあきらめず、に、この紋白蝶の小さな命ががんばって生きようとしている姿に、励まされる思いでいる私です。明るい日の来るのを祈りつつ……。

「我慢」(がまん)は

死語？



先日、ある学校を訪問した時のこと。「先生、がまんという言葉は死語ですよね。」と言われて、私はハッとしました。おそらく今の子どもたちのこと、保護者の方たちのこと、社会一般のこと全てに対して、その方の直面していらっしやる事の重さがその発言にこめられていると感じたための、私の心の反応だったのです。

「がまん」は漢字で書くと「我慢」です。辞書で意味を調べると、①自分をえらく思い、他を軽んずること、②我意を張り他に従わないこと、強情 ③耐え忍ぶこと、忍耐 ④入れ墨のこと。と書かれています。でも、私たちは③の耐え忍ぶという意味で使うことが多いのではないのでしょうか。

子どもたちを見てみると、確かに自己主張ばかりで他人のことは聞けない子や、欲しい物があると何でも手に入るまで泣き叫ぶ子など、我慢ということには死語になりつつあるのかもしれないと不安を感じることがあります。

「自分で選びたい」→自己主張へ  
↳ 第一反抗期

子どもは、生まれた時には、自分では泣くことと眠ることとおっぱいを飲むこと、排泄すること位しかできません。人間の赤ちゃんは未熟な状態で生まれてくると言われています。確かに他の動物が生まれてすぐに立って歩けるようになるのとは違って二足歩行できるまでに一年以上かかります。もちろん、文章で話すまでには、もっと時間を要します。

赤ちゃんは、最初は、全て大人に世話をしてもらい、大人が与える服を着て、与えられた物を食べて暮らしています。でも、二歳頃になると、最初の「イヤイヤ」が始まります。実は、この「イヤイヤ」は、子どもたちの「私に選ばせて!!」という要求のあらわれです。今まではお母さんが用意してくれるものに従っていた赤ちゃんが、一歩成長して、自分の主張を始めたのです。

そんな時に、「どっちにする??」と、二つの物を呈示すると、今まで泣き叫んでいたのが嘘のように「コッチ」と選んでくれます。

しかし、それも最初のうちだけで、三歳になると「もう何でもかイヤ」と言うことになります。三歳の自己主張は、なかなか手ごわいもので第一反抗期とも言われています。絵本にも取り上げられる「イヤイヤ」です。

「聞き入れてもらうこと」と

「聞き入れてもらえないこと」

さて、このイヤイヤの時期、どのようにかかわっていくかが、子育てにとって大切な時期だと私は思っています。

子どもたちは自分の要求を通したいので、大声をあげたり、地団駄を踏んだり、大泣きしたり、ママを叩いたり……様々な行動を起こします。今は、虐待防止法ができて、虐待が疑われるだけでも通報義務がありますから、若いお母さんたちは「虐待だと思われろのではないかしら。」と、何とか早く子どもを黙らせようと、すぐに要求を聞き入れてしまうことも多いでしょう。スマホを与えておけば大人しくしているからとスマホに頼ってしまうこともあるのかもしれませんが、実際に私の知っているお母さんが通報されてしまったこともありました。

しかし、この時期は、「泣けば何でも言うことを聞いてもらえる」とか、「大声を出せば物を買ってもらえるのだ」というまちがった考え方をさせてはいけない時期なのです。子どもたちは、大人の泣き所を知っていて、うまく利用します。自分の要求が通れば良いのですから……。何でも子どもの言う通りにはいけないと、両親が思っているとしても、困っ

たことに、おじいちゃん、おばあちゃんが、そこに割って入ってくるなんてことになる。悪いのは、パパやママということになるわけです。「そんなに泣かせなくても……」と責められるママでも子どもがいくら泣きわめいても、聞いてあげられることと聞いてあげられないことがあるのだということが、実は大切なことだと私は考えています。

買い物に出かける前に、「一つしか買わないよ」と約束して出かけたにもかかわらず、子どもに負けて言われるままに買い与えてしまったとしましょう。おざらしくその子は「約束してたぞ、ほくが泣けば思い通りになる」とことを学び、以後は言うことを聞かなくなってしまうでしょう。大人が言ったことは守ること、これは鉄則です。できないことなり、最初から言わない方が良いでしょう。

最近、「子どもが嫌だと言っています」「子どもに聞いてみません」と言われる保護者の方に出会います。一見、子ども的人格を尊重しているようですが、私は、親として決めねばならないことと、子どもに決めさせねばならないことがあると思えます。親は子どもの家来ではないのですから……。

昔から「三つ子のたましい百まで」と言われているのも、三歳の育て方の難しさを表したものかもしれないかと、勝手に解釈し、自分の欲求が全て満たされるわけではないことを知り、そ

の状況に対して耐える力を培うこと、待つことを覚えることなどが、おそらくその後の人生に大きくかわっていくのだらうと思うのです。

では、小学生や中学生になって待てない子、自分の気持ちをおこらせない子、子どもたちは、一体どうなるのでしょうか？ 子どもたちは様々な行動をおこします。友だちとのトラブル、物を投げる、壊す、暴れる等々です。そして、「ダメでは」と叱られても何度も繰り返すことがあります。

「ダメ」という否定語に対して、よけいにカッとなる子もいるでしょうし、「ダメならどうするの？」と、わからない子もいます。私は、「くと言えはいいいね」とか「くしたらいいよ」と言ってみて下さい等と言いますが、それは決して、子どもがやりたい放題にして良いということではありません。この世の中で生きていく以上、社会的に許されないこと、やってはいけないことは、学んでいかなくてはなりません。

「そうか、悔しかったね」「苛々してたんだね」と気持ちに共感しても、その行動のまちがいを正し、どうすれば良いのかを知らしめていくのは、大人としての役目です。

かつての教え子が学校で暴れていたのですが、「ぼくのやっている事ってそんなに悪いことですか」と聞いてきたことがあります。「そうですね、とんでもない事です」と応えましたが

わかっていなかったんだなあと思いました。

### 「怒る」と「叱る」の違い

今は「叱らずに育てる」時代のようなのですが私は「怒らずに育てる」の誤りではないかと思っています。怒ることと叱ることは全く違うことです。感情的になって怒ることと異なり叱る時には大人の側に冷静さが求められるのです。声を荒げて問い詰めても子どもたちは心を聞いてはくれません。大人の側に余裕がないと叱ることは難しいと思います。私もずいぶん怒ってききましたから、今、反省の上に立って、そんなことを思うのです。これには異論もあるでしょうが、コロナ禍の今だからこそ育児を他人まかせにしないでほしい。面倒でも、仕事も忙しくても、子どもとしっかり向き合う時間を作してほしい。長い時間ではなくてもいいのです。「あなたのこと、見守ってるよ」と、知らせだけでもいいと思います。そして、やってはいけないことをきちんと叱って欲しいのです。子どもの未来のために踏んばってみて下さい。

「親の踏んばりどころ」は「今」だと思え、子育てを見直してみませんか？

### お知らせ

センター親の会は二月も休会です。三月八日、スイトピアセンターでお会いできるのを楽しみにしています。

